

平成29年度事業報告

[はじめに]

平成29年度定量目標は、事業規模2億円達成と全国のWACポイントの拡大であり、取組みの結果、WACポイント拡大はできなかったものの事業規模拡大においては収益事業である受託研修事業拡大により目標達成することができました。

公益事業は、千葉県福祉ふれあいプラザの指定管理事業は、指定管理第3期の4年目を迎え千葉県高齢者保健福祉計画に基づき認知症予防に取り組む施設として認知度向上と地域包括ケアシステム構築に向けた関係機関への支援を年度目標として実施してきた結果、年間利用者数は昨年度に引き続き20万人を超え開館以来の総利用者数は200万人を達成しました。

また、港区アクティブシニア就業支援センター「みなと＊しごと55」は、都内12あるアクティブシニア就業支援センターの中で上位クラスの就職者数を誇りその存在感を示しています。第三者評価事業においては人員強化され本格事業展開の2年目として昨年度実績を上回る評価を受注しました。コミュニティカフェについては自主事業として東京で「コミュニティカフェ開設講座」、「認知症カフェ・ケアラーズカフェ開設講座」をそれぞれ1期、千葉県福祉ふれあいプラザの出張県民研修として1期行い、3月にはコミュニティカフェ全国交流会を行い多数の参加者を得て盛況に終わりました。

収益事業は、柱のひとつである「高齢者疑似体験事業」の「セット販売」「貸出」等は昨年度とほぼ同水準であったが、認知症に対しての世の中の関心を反映して「認知症疑似体験セット」への照会が大幅に増え、対応の結果、事業収入は倍増しました。一方、受託研修事業は、初任者研修のほかに介護予防・日常生活支援総合事業「生活支援サービス研修」を東京しごと財団、八王子市、府中市の委託事業として開催しました。また、今年度は新たに川崎市介護人材マッチング定着支援事業を受注でき、この事業が収支改善に貢献しました。

会員の動向に関して

《個人会員》

平成 30 年 3 月末時点での個人会員は 1,142 人で、内訳は（正会員 137 人、賛助会員 753 人、配偶者会員 252 人）です。

会費納入した会員数内訳：

個人正会員 95 人（男 49 人、女 46 人）
個人賛助会員 475 人（男 194 人、女 281 人）

《法人会員》

平成 30 年 3 月末時点での法人賛助会員は 14 団体です。また、団体賛助会員は 7 団体です。

法人	賛助会員	ティ・シー・アイ ジャパン(株)、久光製薬(株)、(一社)日本青少年育成協会、(一財)高齢者住宅財団、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、(一社)日本健康麻将協会、(一社)コミュニティネットワーク協会、NPO 法人東京山の手まごころサービス、(一社)日本産業カウンセラー協会、NPO 法人ウェアラブル環境情報ネット推進機構、学校法人篠原学園 篠原保育医療情報専門学校、NPO 法人 SSS ネットワーク、YKK AP (株)、名古屋大谷高等学校
団体	賛助会員	NPO 法人日本心身機能活性療法指導士会、東友会関東支部、(一財)全国勤労者福祉・共済振興協会、NPO 法人りすシステム、(公財)さわやか福祉財団、NPO 法人ナイチンゲール、さをりひろば

事業に関して

【公益事業報告】

〔公1事業〕

≪高齢者福祉増進・啓発事業≫

○高齢者の福祉・健康・いきがづくり等支援事業 (千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理)

千葉県福祉ふれあいプラザ（ふれプラ）の指定管理者として法令を順守し、承認された事業計画に基づき、NPO 法人 ACOBA との共同事業体で運営した。

29年度は第三期指定管理（平成26年4月1日～平成31年3月31日）の4年目であった。千葉県高齢者保健福祉計画（平成27年4月1日～平成30年3月31日）にふれプラに対する目標（認知症予防に関する事業の強化、福祉機器展及び介護実習センターの利用者増）が設定、また、県の施設として市町村連携と全県的な活動が要望された。

要望に応えるべく事業展開を図った結果、総利用者数が3年連続20万人越えを果たし、福祉機器展は常設展示を含めた目標値3,500人対して実績4,750人と大幅増となった。

認知症啓発イベント「今日から始める認知症予防」（講師：浦上克哉氏）に436人参加、WACが開発した介護予防講習「ピンピンキラリ初歩麻雀」（全36回）は累計1,147人で昨年度より100名増加、介護予防講習は年間363回実施して昨年度より1,000名多い5,075名に上った。

連携等に関しては、介護予防担当者研修で地域包括支援センター支援を前面に出し、地域包括ケアシステム・介護予防運動実技講習などをテーマに実施して県内19市町が参加した。県民研修などの出張研修は13市町に37回行い、1,576名が参加した。介護予防トレーニングセンターでは国際医療福祉大学看護学部から実習生69名を受け入れた。

利用者アンケートは貸館登録団体912団体中353団体回答があり施設満足度69%で昨年度より2.5%上昇した。トレーニングセンター登録利用者1,000人中667人が回答して94%が満足・やや満足という高い満足度が示された。

利用者数は昨年度を下回ったものの利用料収入は僅かだが昨年度を上回った。千葉県による指定管理運営状況の評価（平成28年事業）において3年連続「優良」の総合評価を受けた。

	29年度予算	29年度実績	28年度実績
総利用者数（人）	200,000	202,051	211,149
利用料収入（円）	25,700,000	25,958,240	25,936,502
収支（円）	0	1,932,951	3,835,329

*収支WAC分75% 1,449,714円

○福祉サービスの質の向上事業

(第三者評価事業)

本年度の事業業績は、収入予算 11,000 千円に対して、実績は 16159, 千円で終了しました。

受託件数は 54 件で、契約先の内訳は、品川区 11 件、目黒区 7 件、墨田区 5 件、荒川区 11 件、台東区 2 件、港区 1 件、民間 17 件でした。今年度は行政の受託が多く、過去最多の受託となり、母子生活支援施設等新しいサービス分野の取組みもできました。

受託サービスの内訳は、認知症高齢者グループホーム 17 件、特別養護老人ホーム・ショートステイ各 6 件、デイサービス 6 件、老健・障害者施設等 8 件、福祉用具貸与、母子生活支援施設、認可保育所各 1 件、利用者調査 8 件（区 4 件、民間 4 件）です。

収支は人件費等の経費をカバーし、目標達成しました。

(単位=千円)

収入実績	支出実績	収支実績
16,159	15,697	462

○長寿社会の啓発事業

(「ふれあいねっと(会員向け情報誌)」の発行)

1 月 31 日に 274 号を発行し、定時総会の模様や新常務理事・理事・監事一覧などを掲載しました。年間 1 回の発行に留まりました。

(単位=千円)

収入実績	支出実績	収支実績
500	621	△121

【公2事業】

≪高齢者の雇用・就労支援事業≫

(「みなと*しごと55」港区アクティブシニア就業支援センター)

求職者数・紹介件数・就職者数・求人件数・求人人数は昨年を下回りました。就職率(就職者/新規求職者)は昨年とほぼ同じ値でした。つまり、効率良く採用の支援ができたとも言えません。昨年よりもさらに、就職困難な求職者の対応と採用困難な求人に時間・労力が費やされたと思われます。

昨年同様、ポスティングが求職・求人の集客に効果がありました。新規求職者 421 人中 72 人、新規求人事業者 144 事業者中 38 事業者がポスティング経由でした。

また、ハーローワーク品川のエントランスでの出張登録説明会を 4 回実施し新規求職者獲得にも繋げました。

求職者に対しては、ホームページの求人情報の更新を頻繁に行い、新規登録と紹介に繋

げました。メールマガジンは、新しいアプリケーションに切り替え、配信回数を増やし、問い合わせも増えました。配信件数48件（求人情報40件、イベント情報8件）、掲載求人120件、その結果、問い合わせ件数61件。既存求職者の近況状況を知ることに繋がりました。

上述のような施策を実施しましたが、29年度内には結果を出すことは出来ませんでした。30年度は、結果につながるよう努力していきます。

求職者数：1,827人（前年2,122人、前年比86.1%）、目標2,200人（達成率83.0%）
 求人件数／求人人数：1,728件／3,790人（前年1,946件／4,649人、比88.8%／81.5%）
 目標1,600件／3,000人（達成率108.0%／114.8%）
 紹介件数：556件（前年658件、前年比84.5%）、目標700件（達成率79.4%）
 就職者数：203人（前年233人、前年比87.1%）、目標280人（達成率72.5%）

（単位＝千円）

収入実績	支出実績	収支実績
25,375	25,375	0

〔公3事業〕

《地域の相互扶助機能活性化事業》

（コミュニティカフェ）

29年度は自主事業として、東京で認知症カフェ・ケアラーズカフェ開設講座を1期、コミュニティカフェ開設講座を1期、千葉市で千葉県福祉ふれあいプラザの出張県民研修として1期開きました。合計73人（単回参加も含む）が受講しましたが、東京圏外の山形・福岡・大分から通った受講生もいました。

以前の受講生も含めて計8人が、3月に東京で開かれた全国交流会に出席し、約150人の参加者の前で開設プランや開設事例を発表しました。グループ討論では18テーマに分かれ、コミュニティカフェの運営や課題について語り合い、それぞれ交流を深めました。

（単位＝千円）

収入実績	支出実績	収支実績
342	753	-411

【収益事業報告】

〔収1事業〕

≪高齢者福祉関係人材育成事業≫

・介護職員初任者研修（通信）

介護職員初任者研修（通信）は、(株)パソナからの委託事業で東京都北区女性の再就職支援事業（6月～7月、9月～11月）を2コース計15人、川崎市介護人材マッチング定着支援事業を4期開催し計51人が受講修了しました。

・生活支援サービス 介護予防・日常生活介護にかかわる生活支援のために担い手の育成事業

平成29年度は、前年度に引き続き、介護予防・日常生活支援総合事業「生活支援サービス研修」を、東京しごと財団からの委託事業として開催しました。（年6回）

平成29年度末の日常生活支援総合事業移行へ向けて、都内各シルバー人材センターの会員に地域で事業の担い手として必要な知識・技術の研修を1コース5日間で行いました。受講者は128人です。

また、八王子市からの委託事業として、2日間の研修を年4回開催し計136人が受講、府中市からの委託事業として、3日間の研修を年3回開催し計51人が受講し、4事業所が参加しました。

・委託事業

川崎市介護人材マッチング定着支援事業の介護保険事業者向けインストラクター研修を実施し、計41事業所が参加しました。また、就職相談会を年3回開催しました。

（単位=千円）

収入実績	支出実績	収支実績
51,062	48,207	2,856

〔収2事業〕

≪高齢者・認知症疑似体験事業≫

・高齢者疑似体験

高齢者疑似体験事業は企業や行政の研修予算が削減される中、依然として厳しい状況ですが、高齢者疑似体験を取り入れた研修の依頼は堅調で、質の高い研修を強みとするWACの研修への需要は大きいと思われます。29年度はうらしま研修およびイベントは年間21件実施し、うち、新規依頼が9件でした。つくし君に関しては台東区からの委託事業が中心で、小学校16校909人に体験してもらいました。販売では、毎年実施している1月～3月のキャンペーンで部品、セットとも売上を伸ばしました。

また、既顧客に対しては、定期的な情報提供など継続フォローを丁寧に実施しました。

うらしまインストラクター養成研修は、本部では6月1日・2日（受講者10人）、10月5日・6日（受講者12人）、3月1日・2日（受講者22人）、川崎市初任者研修で3月27日・28日（受講者13人）、の計4回行い、計57人が受講しました。

・認知症疑似体験

認知症疑似体験に関しては、認知症に対する関心の高まりと相まって、年初より問い合わせが相次ぎました。研修は8件13回、イベントは5件実施し、1000人以上に体験してもらいました。実施した13件のうち新規依頼が11件で、今後もマーケットの開拓が期待できると考えます。

販売については、生野区医師会、西九州大学および福岡県立大学の3箇所に対し、13台を納品しました。インストラクター研修は各販売先に出張して3回実施しました。

（単位=千円）

	収入実績	支出実績	収支実績
高齢者疑似体験	16,969	11,543	5,426
認知症疑似体験	2,981	2,474	508

〔収3事業〕

《介護予防事業》

（品川区委託事業）

・健康マージャン

高齢者の仲間づくり、生きがいくりの場として自治体との協働でのマージャン教室を設置し、これを年間通じ、さらに年度を越え継続して運営することにより、高齢者の継続的社会参加を実現し、介護予防に寄与しています。

・男の手料理教室、わくわくクッキング、食事処

高齢者の介護予防事業として、品川区からの委託を受けて開催しました。

男の手料理教室は、平成18年度から開講、29年度は69人でした。

地域活動連携型介護予防事業（わくわくクッキング）は、平成24年度から開講、29年度は3コース開催し、年間延べ参加人数480人でした。

外出習慣化事業（大井食事処）の3コースは、年間を通じて開催しました。平成25年度から開講、年間延べ180人の参加です。

西大井いきいきセンターのレストランは平成27年8月にオープンし、今年3年目を迎え毎週開催しています。

(単位=千円)

収入実績	支出実績	収支実績
6, 8 9 0	8, 2 6 4	- 1, 3 7 4